

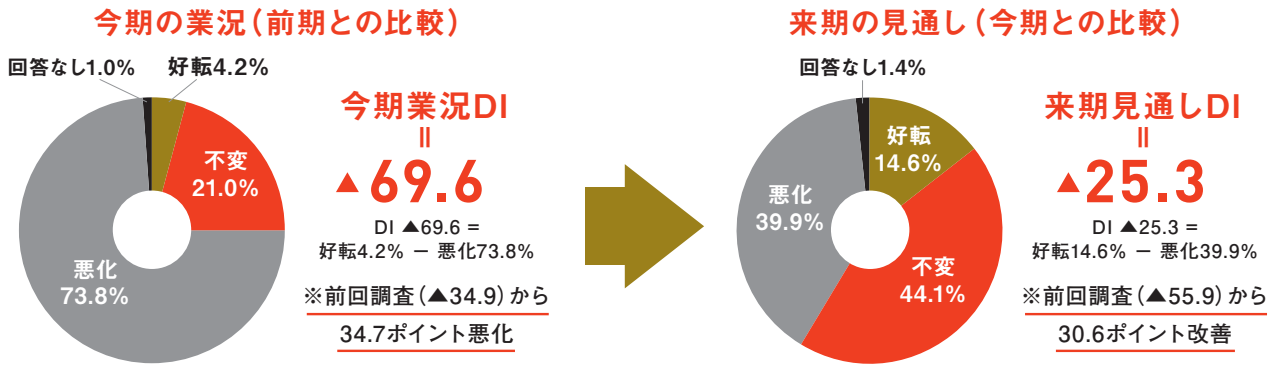
世田谷区における中小企業の景況

第72回調査実施概要

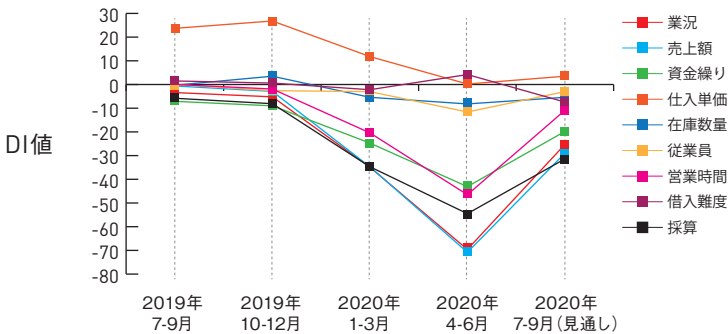
1.調査時期：2020年7月1日～7月9日 2.対象期間：2020年4月～2020年6月期、および2020年7月～2020年9月期見通し 3.調査対象：東京商工会議所世田谷支部会員(2,957社)①製造業・建設業・運輸業・その他の業種(②～④を除く)…資本金3億円以下、または従業員300人以下 ②卸売業…資



今期(2020年4～6月期実績)の業況DIは、▲69.6ポイントで前期から34.7ポイント悪化となった。来期の業況見通しDIは▲25.3ポイントとなり、前回調査より30.6ポイント改善の見通し。



今期は借入難度+4.2(前期比+6.4)以外でポイント減少、主な指標は売上額▲70.8(前期比▲36.1)、営業時間▲46.5(同▲26.1)、採算▲54.5(同▲19.8)など。来期見通しは7指標でポイント増加が見込まれる。主な指標は売上額▲29.0(当期比+41.8)、営業時間▲10.9(同+35.6)、資金繰り▲19.8(同+23.3)などとなった。



業況	▲3.4	▲5.2	▲34.9	▲69.6	▲25.3
売上額	▲0.6	▲2.9	▲34.7	▲70.8	▲29.0
資金繰り	▲7.1	▲9.0	▲24.7	▲43.1	▲19.8
仕入単価	23.7	26.8	11.8	0.2	3.5
在庫数量	▲0.3	3.5	▲5.4	▲8.2	▲5.4
従業員	0.0	▲2.6	▲3.0	▲11.6	▲3.0
営業時間	0.0	▲1.9	▲20.4	▲46.5	▲10.9
借入難度	1.5	0.6	▲2.2	4.2	▲7.4
採算	▲5.8	▲8.1	▲34.7	▲54.5	▲31.4
	2019年 7-9月	2019年 10-12月	2020年 1-3月	2020年 4-6月	2020年 7-9月(見通し)

主要景況指数表[今期の状況(前期比)]

(注)調査項目：業況(好転⇔悪化)、売上額(増加⇔減少)、資金繰り(好転⇔悪化)、仕入単価(上昇⇔低下)、在庫数量(増加⇔減少)、従業員(増加⇔減少)、営業時間(延長⇔短縮)、借入難度(容易⇔困難)、採算(好転⇔悪化)

	業況	前年同期比	売上額	前年同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	▲69.6	▲62.1	▲70.8	▲62.1	▲43.1	0.2	▲8.2	▲11.6	▲46.5	4.2	▲54.5
製造業	▲61.9	▲45.2	▲73.8	▲47.6	▲40.5	0.0	▲16.7	▲11.9	▲40.5	14.3	▲57.1
建設業	▲54.3	▲40.0	▲55.7	▲41.4	▲24.3	17.1	▲18.6	▲1.4	▲25.7	4.3	▲47.1
不動産業	▲56.1	▲51.2	▲56.1	▲51.2	▲39.0	▲9.8	0.0	▲9.8	▲46.3	▲12.2	▲41.5
卸売業	▲73.8	▲75.4	▲72.1	▲70.5	▲29.5	4.9	11.5	▲8.2	▲45.9	9.8	▲57.4
小売業	▲82.8	▲74.2	▲78.5	▲73.1	▲64.5	2.2	▲8.6	▲22.6	▲71.0	6.5	▲54.8
サービス業	▲74.2	▲70.1	▲78.4	▲72.2	▲47.4	▲12.4	▲12.4	▲11.3	▲41.2	1.0	▲61.9

主要景況指数表[来期の見通し(当期比)]

	業況	売上額	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	▲25.3	▲29.0	▲19.8	3.5	▲5.4	▲3.0	▲10.9	▲7.4	▲31.4
製造業	▲33.3	▲35.7	▲23.8	▲2.4	▲21.4	0.0	▲28.6	2.4	▲28.6
建設業	▲25.7	▲35.7	▲14.3	11.4	▲7.1	2.9	▲12.9	▲1.4	▲34.3
不動産業	▲36.6	▲24.4	▲29.3	▲9.8	0.0	▲2.4	▲9.8	▲17.1	▲31.7
卸売業	▲11.5	▲16.4	▲1.6	9.8	0.0	▲6.6	▲13.1	▲1.6	▲19.7
小売業	▲25.8	▲30.1	▲25.8	5.4	▲4.3	▲7.5	1.1	▲10.8	▲31.2
サービス業	▲24.7	▲29.9	▲23.7	0.0	▲4.1	▲2.1	▲12.4	▲12.4	▲38.1

概況：<DI(Diffusion Index)とは…> DI(%)=[「良い」「増加」等企業割合-「悪い」「減少」等企業割合]

DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」したとする企業の割合が多く、景気(またはそれぞれの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景気が低迷の傾向にあることを示します。